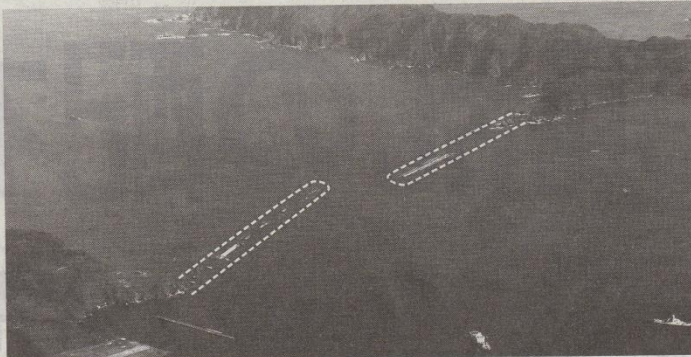


①釜石湾(右手前)を守るため築かれていた防波堤(点線部分)は、大津波を受け決壊した②津波で破壊され、虫食い状態になった防波堤(いずれも19日、岩手県釜石市で、本社機から)＝米山晋撮影



津波「ジャンボ250機分」

釜石湾

太平洋沿岸を襲った大津波は、世界有数の規模を誇る三陸海岸の防波堤を軒並み破壊した。早稲田大学の柴山知也教授(海岸工学)が19日午後、本社機で上空から視察し、岩手・釜石湾入り口の「世界最深」の防波堤を破壊した津波について、「時速1000キロメートルで飛行中のジャンボジェット250機分以上の運動量があった」と試算した。(金子靖志)

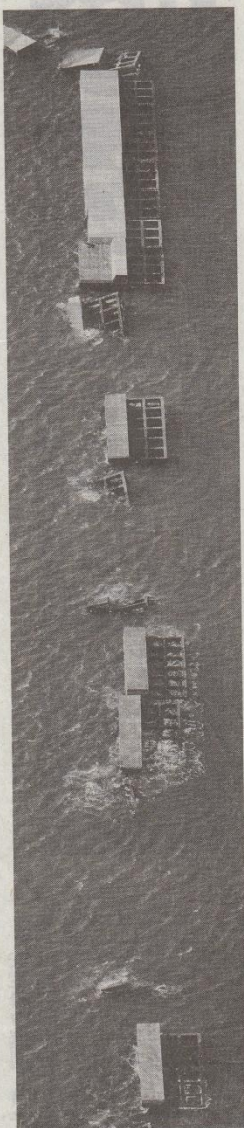
釜石湾の入り口に南北に伸びていた。しかし上空から見ると、北側の防波堤は約80メートルにわたり大きく崩落し、かろうじて残った部分でさえ、海面に虫食い状に残っていた。海面に出た部分には、残ったコンクリートブロックが様々な方を向いて崩れた姿をさらしていた。

防波堤は、最深63メートルの海底に東京ドームの7倍に当たる700万立方メートルの巨大なコンクリート塊を沈め、その上部にコンクリート壁が構築され、2009年に完成したばかりだった。国土交通省によると、1986年(明治29年)の明治三陸地震(マグニチュード

世界最深の防波堤 無残



8.5)の揺れや津波に耐えられるように設計され、「世界最深」としてギネス記録に認定されていた。大船渡港(岩手県大船渡市)にある巨大な湾口防波堤(全長約750メートル、水深



約40メートル)も完全に崩壊し、水没していた。柴山教授は、「地震で破損した箇所に高い破壊力の津波がぶつかり、一気に崩壊した可能性がある。予想をはるかに超える威力だ」と指摘した。防波堤内側の海岸沿いにある「最後の砦」の防潮堤も多くがなぎ倒された。同県宮古市田老の高さ10メートルの巨大防潮堤(全長約2.5キロ)は、住民らから信頼感を込めて「万里の長城」と呼ばれていたが、津波はそれを超え、集落をのみこみ大きな泥沼を作っていた。

同県山田町の防潮堤も50メートルにわたり激しく倒壊し、灰色の泥をかぶった町には漁船や家々が、がれきと一緒に転がっていた。

柴山教授は、「全国的に防災対策を作り直す必要がある」と唇をかんた。